

岐阜のつたえ話 攻略マ

皆さんは、岐阜市にたくさんのつたえ話があることを知っていますか。
様々な場所に伝わるお話を知り、その場所を散策してみましょう！

ひけ じぐみ 火消しの『のノ字組』(則武)

つたえ話のあらすじ

江戸時代のことです。江戸(今の東京都)以外には、火消しの組織はありませんでした。そのため火事が起こるたびに大きな被害がでました。則武村で造り酒屋を営む高橋亦五郎(たかはしまたごろう)は、焼け出された人やけがをした人を見るたびに心を痛めていました。そこで、天保10年(1842)に、亦五郎が「とび頭」となり、則武の名にちなんで『のノ字組』という火消し組をつくることとなりました。それからというもの、『のノ字組』の活躍はすばらしいものがありました。火事と聞くとすぐに全員が集まって火事場かけつけ、たちどころに火を消し止めてしまうのです。



これはたらきをたたえ、「菊花御紋章付(きくかごもんしょうつき)まとい」というまといを頂きました。今も則武公民館に展示してあります。

則武人形芝居「走れ！火を消せ！のノ字組」

この話を人形劇にして子ども達に継承していこうと、平成14年に募集の結果、小・中・高校生、大人の20数名から成る「まといの会」が結成されました。小学校の体育館や公民館等で公演をしており、12月4日には、城西公民館で公演予定です。



プラザ掛洞・リサイクルまんが館
7ページに紹介



かえる かめ ち つうしょうにん 蛙と亀と智通上人(市橋・本荘)

つたえ話のあらすじ

600年ほど前、仏教を広めながら旅をしていた智通という僧が、市橋の西荘にとどまって修行をすることにしました。

ところが、夏になると池の蛙がうるさく修行に身が入らなくなり、智通上人は美山の谷合に行ってしまう。ある夜、池にすむ亀が夢の中に出てきて、「西荘にもどってください。池の蛙は鳴きませんから。」と言いました。西荘にもどってみると、池はしんとしずまりかえています。人々は、「蛙鳴かすの池」と呼ぶようになります。

智通上人が、雨の日に川向こうへお経をあげに行こうとして困っていると、大きな亀が現れ、智通上人を乗せて向こう岸までいったというお話もあります。



にししょう りゅうしょうじ
市橋の西荘にある立政寺
智通上人が開いたと言われるお寺です。



立政寺にある「蛙鳴かすの池」



亀の渡し跡に立つ灯ろう

- ★立政寺は、JR岐阜駅から北西へ徒歩5分で行けます。蛙鳴かすの池はお寺の西にあります。
- ★右の写真は、智通上人が亀に渡してもらったところに立つ石の灯ろうです。ここはお話にちなんで「亀の渡し」と呼ばれたそうです。石の灯ろうは、大縄場大橋から長良川左岸の堤防を下流に200mほど行くと左手の芝生の中にあります。
- ★「亀の渡し」について知っている人があったら、教えてください。(266-5134 中央青少年会館 子どもセンターぎふ協議会事務局)



ここに載せたお話のいくつかは、この本に載っています。公共図書館や学校の図書館にこの本があります。一度読んで見てはどうですか…。

編集 岐阜のつたえ話編集委員会
著作 財団法人 岐阜市教育文化振興事業団
発行 財団法人 岐阜市教育文化振興事業団